



ある男が、ロバとオウムを連れて、旅に出た。
今までに行ったことのない地へ向かう長旅だった。

だれが やくわり その役割に ぴったり？



ふう！
なん おも
何て重い
荷物なんだ。

男は、旅に必要なものをすべて
大きな袋につめ、その重い荷物を
自分の背中にかついだ。

道が分からなかったので、
男はロバを先にやって、目的地に
向かう道をさがさせた。その間、
男は重い荷物を必死に運んだ。



ロバよ、
先に言って、
道をさがしてきて
おくれ。

さあ、
行こう！

よる 夜には みんな、へとへとだった。気持ちも ふさぎ、お腹も ペコペコだった。
ほうこうかんかく わる 方向感覚の 悪い ロバは、けっきょく みんなを どうどう 結局 みんなを 堂々めぐりさせただけだった。
た もの さが 食べ物を探するために 送り出された オウムは、ミミズをつかまえて もどって来た。



わしは 腹ペコだし、
つかれたわい。お前さんたちは、
ちっとも 役に 立たんなあ！

各自の 才能を
活かしては、
いかがでしょうか。

3日目が 過ぎ、
彼らの キャンプの
そばを 通りがかった
人が、彼らの 苦情を
耳にした。それで
立ち止まって、
助言を してくれた。



ロバは、
ちからも おも
力持ちです。重い
にもつ かるがる
荷物だって、軽々と
はこ 運べますよ。

オウムは、^{さき}先に ^と飛んで
い 行って、^{もくてきち}目的地への ^{みち}道を見つけて
くることが できるでしょう。

そしてあなたは、
こんな ^{おも}重い ^{にもつ}荷物を ^{かつぐ}かづぐのは
やめて、^{しょくじ}食事を ^{ようい}用意したら
いかがでしょうか。

そして、また ^{たび}旅に ^で出る ^{とき}時は、それぞれが ^{じぶん}自分の ^{もつと}最も
^{とくい}得意な ^{しごと}仕事を ^{しよう}しようと ^き決めたのだった。

- ^{とくゆう}あなた特有の ^{さいのう}才能は、^{なん}何ですか？
- あなたの ^{きょうだいしまい}兄弟姉妹や、^{こども}クラスの ^{ほか}ほかの ^{こども}子供たちは、
^{さいのう}どんな ^も才能を ^も持っていますか？
- どうしたら、このような ^{さいのう}才能を、^{たす}たがいに ^あ助け合うために
^{つか}使えるでしょうか？

その夜、^{よる}男と ^{おとこ}オウムと ^{とお}ロバは、^{ひと}通りがかりの ^{じよげん}人が ^{くれた}くれた ^{じよげん}助言に
ついて ^{かんが}考えた。朝 ^{あさ}になると、その ^{じよげん}助言を ^{ため}試してみることで ^{みんな}みんなの
意見 ^{いけん}が ^{かくじ}まとまった。そして ^{あたら}各自、^{やくわり}新しい ^と役割に ^{とりか}取りかかった。

すると ^{たび}旅は ^{じゆんちよう}順調に ^{すす}進み、^{らく}もっと ^{らく}楽になった。ほどなくして、
^{かれ}彼らは ^{もくてきち}目的地に ^つ着くことが ^{できた}できた。



オウムよ、^{ただ}正しい
^{ほうこう}方向に ^{あんない}案内してくれて、
ありがとう。

ロバよ、
^{にもつ}荷物を ^{はこ}運んでくれて、
ありがとうよ。